

硫黄の道

ガイドマップ

ーワイスホルン山麓く硫黄鉱山跡へー

「自然と山を愛する人へ」



GUIDE MAP

for TRAIL OF FORMER SULFUR MINE SITE

Published by : Kutchan Tourism Association



当時の発掘の様子

近代化産業遺産とは、幕末・明治維新から戦前にかけて日本の産業近代化に貢献した建築物、機械、文書などが果たした役割を今に伝えることを目的として、2007年に経済産業省が認定した遺産のことです。イワオナプ里硫黄鉱山は「近代化産業遺産群続33(2009年)」にその名を連ねています。

イワオナプ里硫黄鉱山の特徴は以下のとおりです。

1
当時は近代技術だった電気精錬等を導入した

2
北海道で初めて蒸気精錬法を用いた

3
採掘法は露天掘り、のちに坑内掘りを採用し、坑内に運搬のためのレールを設けた



石臼とみられる遺物

遺構や遺物を許可なく動かしたり、持ち出したりすることは違反行為です。先人の営みを今に伝える重要な財産の保護のため、見るだけにとどめてください。

1. ニセコ積丹小樽海岸国定公園

昭和38年に指定された北海道の西部に位置する国定公園です。ニセコ連峰を中心に積丹半島から小樽海岸までを含む、山と海のスケールの大きな公園となっています。ニセコ連峰はニセコアンヌプリ、イワオナプ里、チセヌプリ、目国内岳など標高1,000m級の山々からなり、標高は低いですが北に位置する為に山頂部は高山植物に覆われています。



緑色：ニセコ積丹小樽海岸国定公園のニセコ連峰エリア

2. 気持ちよく歩くためのヒント

- ・長靴……ぬかるみの多いトレイルです。長靴をお勧めします。
- ・ストック……植生保護のためにゴムキャップを付けてください。
- ・踏みつけ……コケや高山植物はとても脆弱です。踏みつけないようにしてください。
- ・採取……『硫黄の道』は国定公園内のトレイルであり近代産業遺産にも指定されています。動植物の採取と遺物の損壊は禁止されています。
- ・盗掘……見つけた場合は直接声をかけずに、警察に電話してください。
- ・ゴミ……ゴミは必ず持ち帰ってください。

3. 安全

- ・ヒグマに注意してください。クマ鈴やクマスプレーの対策を忘れないようにしましょう。
- ・ツタウルシとスズメバチに注意してください。

それでは、皆さん安全に楽しんで下さい！

｜発行｜一般社団法人 倶知安観光協会
｜監修｜ニセコ羊蹄山岳会・倶知安風土館
｜装丁｜北方画像設計研究室
｜表紙｜田中まりな

硫黄の道

ガイドマップ

ーワイスホルン山麓へ硫黄鉱山跡へー

「自然と山を愛する人へ」



GUIDE MAP
for TRAIL OF FORMER SULFUR MINE SITE

Published by : Kutchan Tourism Association

硫黄鉱山

硫黄の道について

イワオヌプリ(標高1,116km)の北側に、明治から昭和初期にかけ栄えたイワオヌプリ硫黄鉱山の跡地があります。

この鉱山のはじまりは不明ですが、北海道で硫黄採掘のはじまったのが天明4(1783)年の恵山(函館)、寛政9(1797)年の登別であったことから、同じ頃ではないかと考えられています。ニセコ連峰の開発は、硫黄の採掘から始まったといえます。本格的な採掘は、明治になりマッチの原料として硫黄の需用が増えてからのことです。

明治25年にクッチャン原野が開拓され、大正8年に鉱山から倶知安市街地まで索道が通され操業しましたが、それ以前は硫黄をはじめ、人や物の移動はすべて岩内から行われました。最盛期には200人近い人々が生活し、学校や診療所、食堂、住宅などが立ち並びました。

しかしその後、資源の枯渇や石油から硫黄を回収できるようになったことによる需要の低下を背景に、昭和12年に閉山しました。イワオヌプリ硫黄鉱山の生産量が多い年で年産1万トンほどでしたが、歴史の長さでは全国の硫黄鉱山でも屈指のものです。



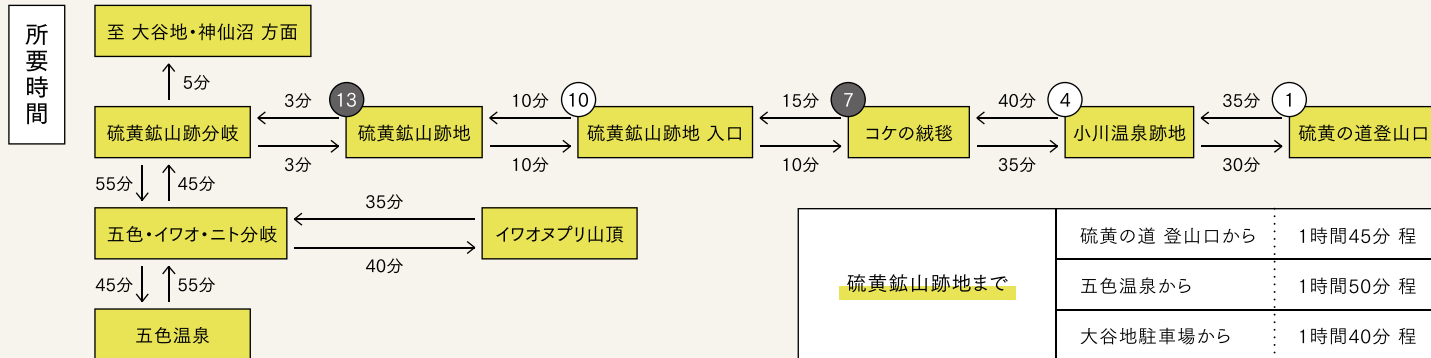
大沼で水分補給する人馬



当時の集落の様子

鉱山での暮らし

硫黄鉱山を横断する硫黄川は、名前のとおり硫黄を多く含んでいるため生活用水に適していませんでした。鉱山で働く人々は、生活に必要な水を大沼で汲み、馬で運んで調達していたようです。当時の話に「冬場、倶知安の町から硫黄鉱山の町に行くのは大変だった(大正初期)」、「魚屋としてニシンやホッケの乾物などを、4時間以上の時間をかけて運んだ(大正5年頃)」といったものがありますが、雪深い山奥でどのように暮らしていたのか、未だ謎が多いようです。



見どころ



地図番号
2

イワオヌプリ硫黄鉱山の跡地を歩いていると目につく、たくさんのレンガ。その中に時折「OWARI-TAIKWA」という文字が刻まれたものが見つかるかもしれません。これは「尾張耐火」と読み、硫黄精錬釜の焚口周辺を構成する部材として使用されました。愛知県尾張地方の瀬戸層群と呼ばれる地層で採掘される粘土は耐火性が高く、成形しやすいことから、高品質の耐火物が製造されました。海を渡ってきた耐火レンガ、探してみてはいかがでしょうか。



OWARI-TAIKWAレンガ

地図番号 | 12 13



青い川

地図番号
11 12

苔の絨毯を踏まないで！



地図番号 7 と 12 では、地面がコケに覆われた独特の美しい景観を眺めることができます。コケ（蘚苔類）は通常の植物に比べて組織の発達が悪く、成長速度が遅い植物です。また、水や光・温度・土壌などの環境要素と強く結びつきながら生育しているので、その環境を知る上で重要な指標となる一方、環境の影響を非常に受けやすい植物でもあります。このようなコケの群落は環境の変化や人為的影響にとても敏感で、人の踏圧や道の荒廃によって真っ先に影響を受け、群落が減少していくと回復は非常に困難となります。見た目の美しさと手触りの良さを感じるのみにして、足を踏み入れたり・腰を下ろしたりしないよう、優しく接してあげてください。

菌類



コツブタケ

コツブタケ(小粒茸)は火山荒原等にはえるキノコで、ダケカンバやハイマツ等の樹種と菌根共生します。火山による強酸性の地面では、一般的な樹木は生育しづらいのですが、コツブタケはそういう所でも樹木の根と共生し、その生育を助けることができるという特徴があります。硫黄の道では地図番号 8 の地点で、その姿を見ることができます。



ナメコ

ナメコ(滑子)は、湿っているときに見ると、ぬめりのある傘とゼラチン質のツバが特徴的なキノコです。枯れ木を分解する腐生菌で、晩秋～初冬にミズナラやイタヤカエデ・ウダイカンバなどの枯れ木に群生します。



イオウゴケ

イオウゴケは硫黄鉱山周辺の地面にはえる地衣類で、鮮やかな赤い色をした子器(地衣類が胞子を飛ばす器官)が目を惹きます。硫黄分を多く含む土壌では、一般的な植物や地衣類は生育しづらいため、硫黄分に強い、独特の種が生えます。イオウゴケは、硫黄分の強い温泉(雪秩父の露天風呂)などでもしばしば見られます。

植物



ダケカンバ

ダケカンバ(岳樺)はシラカンバ(白樺)に似た白い樹皮を持つ樹木で、シラカンバよりも高い標高に生育し、北日本の山を代表する樹木のひとつです。ニセコでは標高550m程度を境にシラカンバからダケカンバへと移り変わり、山の斜面がダケカンバに覆われる姿はニセコを代表する景観となっています。



ツバメオモト

光沢のある厚い葉を数枚広げた姿が特徴的で、雪解け直後の6月頃に咲く、清楚な白い花は気品を感じさせます。ニセコ山系でもイワオヌプリ周辺の山域で多く見られ、8月下旬～9月にかけて見られるコバルトブルーの美しい実もひときわ目を惹きます。



イソツツジ



エゾノマルバシモツケ



シラタマノキ

硫黄川上流部の台地(地図番号 10 ～ 13)では、イソツツジやエゾノマルバシモツケ・シラタマノキといった植物が見られます。これらは、火山性の山など、植物が生育しづらい環境で生きる植物たち。雪解け直後の早い時期にはイソツツジの花、夏はエゾノマルバシモツケの花、秋はシラタマノキの実、と季節ごとに彩りを添えています。どれも20cm～1m程度の低木なので、見通しの良い場所に出たら足元に目を配ってみて下さい。

動物



ミソサザイ



ホシガラス

このコースは標高の移り変わりと共に、周囲の森の姿が変化するのも魅力。森が変われば見られる鳥も変わります。登山口付近の森では笹を好むウグイスの声から始まり、カラ類やキツツキ類、渓流沿いの森林を好むミソサザイの高らかな声が聞かれるかもしれません。標高を上げるにつれて、口笛のような

“フィー”というウソの声が聞こえることも。ハイマツが出てくればそこはもう亜高山の森。ハイマツからハイマツへと飛ぶホシガラスが見られるかもしれません。



ムカシトンボ

名前の由来は原始的なトンボの形態に近いことから。水のきれいな山あいの源流部に生息し、初夏に現れる成虫はとても素早く飛び回ります。幼虫期間は5～8年と成長に長い期間を必要とします。日本固有種。川の発達したニセコ山系では、渓流上部で見かける機会も多いでしょう。



ニホンザリガニ

日本唯一の在来ザリガニで、北海道と北東北に生息します。山地の冷たくきれいな水が流れ込む細い沢や溝で、ひっそりと暮らしています。ニセコ連峰の沢や沼でも見られます。環境変化にとても弱く、開発や伝染病によって数を減らしています。2023年に特定第2種国内希少野生動物植物種に指定され、商業目的の採集が禁じられました。

危険な生き物



ツタウルシ

ツタウルシは樹木の幹や地面の上を這って伸びる、“つる植物”で、3枚が一組となっている葉が特徴的です。秋には真っ赤に紅葉してきれいですが、葉や蔓の汁には揮発性のかゆみ成分「ウルシオール」が含まれており、ウルシにかぶれる体質の人は、ツタウルシに触った翌日から数日後に、とても肌がかゆくなります。硫黄の道にも至る所に生えているので、触らないように注意し、肌を露出しない服装で歩くようにしましょう。



スズメバチ

夏～秋にかけ危険度を増すスズメバチ。ハチとのつきあい方をご紹介します。

【ハチに刺されないために】

□ハチがいそうな場所には近づかない

－巣：木の根元、樹洞、茂みなど

－成虫：樹液が出ている樹など

□近くを飛ばれた場合

－ホバリングするハチや羽音に警戒

－低姿勢になり、来た道を静かに戻る

－大アゴを鳴らす、体にぶつかるなどの動きがあれば特に危険

□服装選びなど

－暗色の服装や装備を控える

－香水やヘアスプレーなどの使用を控える

□備え

－アドレナリン自己注射キットの携行：アレルギーショックが起きている可能性がある場合

－最寄りの病院の緊急連絡先：連絡手段の確保も忘れずに

【ハチに刺されたら】

1. まずは攻撃圏から逃げる

－姿勢を低くして後ろに逃げる。ハチは横の動きに強く反応する

－噛みついて離れないハチは素手で触らない。木の枝などを使って落とす

2. 避難と安全確保

－すぐにほかの人にハチ刺傷を伝える

－慌てず速やかに連絡・交通手段を確保

(アレルギー反応は早ければ15分程度で発症)

－刺傷時刻の確認

(1時間経過して、アレルギー反応が出なければ、ひとまず安心)

－患部はなるべく冷やし、体調確認

(アルコールの摂取は数日控える)

【傷の手当て】

1. 毒を外に出す

(指で強くしぼるなど)

2. 冷たい水、または緑茶で洗い流す

3. 毒成分の不活化

(20%タンニン軟膏の塗布)

4. 炎症の軽減

(冷湿布や抗ヒスタミン系成分を含むステロイド軟膏の塗布)

5. アレルギー反応がある場合、すぐに病院で受診する

ニセコ山域はヒグマの生息エリアです！

自身の安全だけでなく、他の登山者の安全のためにも、下記の点を守りましょう。

遭遇回避のための絶対安全な対応策はありません。事前情報を確認した上で行動中は周囲に気を配り、痕跡などの危険を感じたら速やかにその場から離れましょう。

突然の遭遇を防ぐために、鈴などで音を出して人間の存在をアピールしながら行動しましょう。特にトレイルランニングは突発的に出会ってしまう可能性が高いので、十分に注意して下さい。

単独行動や薄明薄暮での行動は遭遇の危険性が高まります。より慎重な行動が必要です。

ゴミや食べ残しの投棄はしてはいけません。ヒグマへの餌付けとなる可能性があり、人身事故にも繋がります。

ヒグマの不要な興奮を避けるため、犬などを連れて入山することは避けた方が良いでしょう。

《もしも出会ってしまったら》

走って逃げたり、叫んで刺激したりせず、冷静に後ずさりしながら距離を取ることが大切です。至近距離まで接近してきたら、クマ撃退スプレーの使用も必要となります。何より、出会わないように・誘引しないように心掛けることが、事故を防ぐために重要です。